

自己有用感を高め、よりよい学級や学校をつくろうとする児童の育成

—児童会活動と学級活動の連携を通して—

特別研修員 特別活動 小金澤 俊郎（小学校教諭）

児童の実態

○期待されるとがんばれる。自信があると、積極的に行える。
△発言が一部の児童に限られたり、目的から逸れた意見が出たりして、話し合いが深まらない。

教師の思い

・自分たちで学級や学校をよりよくしたいと考え、行動してほしい。

手立て：児童会活動と連携した学級活動の工夫

学級活動（1）第3学年
議題「人権月間の取組で、
1・2年生と協力しよう」

ステップ1 事前 議題設定、題材設定での連携

話し合いの
観点

1・2年生と協力できる工夫！

11月は
人権月間！

3年生のみなさん、
頼りにしています！
（児童会作成の
ビデオメッセージ）

期待されると
うれしいな。
協力してみよう！



繰り返すと…！

もっと学校の役に立つ
係活動をしたいな。
よし、水道ゴシゴシ係だ！

次の議題、題材へと続く！

自己有用感

ステップ3 事後 フィードバックでの連携

僕たちの活動が、
児童会のWebページに
載っているね。
僕たちも学校のために
活躍できたね！

よいところカードが
たくさん集められたね。
1・2年生も配達を
がんばってくれているし、
協力できてよかった。

ステップ2 本時 めあてを設定する上での連携

・めあてを設定する際に、話し合いの
観点を盛り込む。

1・2年生と協力
できる工夫を
考えてください！
（話し合いの観点）

つかむ

1・2年生と一緒に、
楽しみながら活動できる
方法を考えよう。
（めあて）

出し合う

私は、友達のよいところ
カードを、1・2年生に
配達してもらえばよいと
思います。
（めあてを基にした意見）

比べ合う

「ゆうびん」がよいと思います。
理由は、集めるのが3年生、
配るのが1・2年生で、協力
しやすいからです。
（めあてを基によさを比べ合う）

まとめる（決める）

1・2年生と協力して活動
できそうな「ゆうびん」と、
楽しそうな「ボードの形」を
合わせて決められてよかった
です。（よりめあてに沿った
意見にまとめる）

成果

- ・連携を繰り返し、自分たちの活動が学級や学校に影響を与える経験を積み重ねることで、自己有用感を高めている姿が見られた。
- ・係活動の内容が学級や学校を意識したものになるなど、よりよい学級や学校をつくろうとする姿が見られた。

課題

- ・クラブ活動や学校行事も含め、特別活動全体の連携を更に進めていくとよい。